災害ボランティアセンターが、「被災者中心」「地元主体」「協働」を実現できるための研修・人材育成事業

一般社団法人 ピースボート災害支援センター

被災者ニーズを捉えられる担い手の育成をめざす

災害時に災害ボランティアセンター（以下、災害VC）を設置・運営する中で、ボランティアやNPO等の社会的資源を十分に活かすことができず、本来解決できるはずの被災者のニーズに応えられないことが被災地において課題となっていました。

そこで、全国の被災地で社会福祉協議会（以下、社協）やNPO等と連携し、災害VCの運営支援に携わってきた経験をもとに、全国の市区町村社協を主な対象として、様々な被災者ニーズに応えることができる災害VCの担い手を育成する研修を行いました。

被災者支援の「3原則」を軸に置いた研修の実施

研修は3年間で、全国82地区で6，137名に対して実施することができました。

研修の企画段階においては、市区町村社協の研修担当者から組織の理念や受講対象者、支援の理解度など細やかな聞き取りを行うことで、各地区の実情に合わせたプログラムを構築できました。

また、研修はワークショップを中心に据えました。具体的には、「災害VCマッチング体験カードゲーム」を新たに作成し、災害VCにおける被災者支援のための3原則「被災者中心」「地元主体」「協働」とともに、災害VCの運営に関して体系的に学べるよう工夫をすることで、参加者自らが主体的に考える機会となりました。

3年目には、研修事業が平時の取り組み（マニュアルの見直し、人材育成、協働連携先とのネットワーキング等）や地域防災・減災力の向上につながったかを検証するための評価を全国26地区を対象に実施することができました。

助成年度	助成決定額
2017年度～2019年度	1年目750万円 2年目860万円 3年目860万円

今後の災害を見据えた地元主体の体制づくり

3年間の事業実施により、全国の社協とのネットワークは格段に広がりました。一方で、ピースボート災害支援センターによる講師派遣だけでは、機会が不十分である事を実感しました。そこで3年目の取り組みとして、災害VCマッチング体験カードゲームの研修キット『災害ボランティアセンターシミュレーションゲーム』を作成し、それぞれの地域が主体となって研修が出来るような体制を整えました。

あわせて研修実施後の効果を高めるために、災害に備えるための具体的な準備や支援のあり方を考える「災害VC立ち上げワークショップ」の企画や、組織として災害に係る事業の全体を検討できるようなコンサルティングを実施しています。

今後も、社協のニーズに応じてより効果的な取り組みを考え、実行していきます。

担当者の声

一般社団法人
ピースボート災害支援センター
スタッフ　垣貫 紀彦さん

本事業の実施によって、平時の取り組みの深化や拡大だけでなく、培われた関係性によって災害時の迅速な支援に繋がりました。また、事業評価を実施した事で、取り組みを見直す良いきっかけになりました。一方でコロナウイルスによって、被災地では今まで以上に必要な支援が届きにくい状況が生まれてしまっています。今後も災害時の支援と平時の人材育成の両面から取り組みを継続していきます。